

どんな災害がおこっても臨機応変に対応できるように

～ 朴坂集落で自主防災訓練 ～

十月三十日、朴坂集落（佐藤啓助区長）で大地震を想定した自主防災訓練が行われました。同集落が自主防災組織を立ち上げたのは、平成二十年四月。以後、毎年、地震や水害を想定した防災訓練を

実施し、四回目を迎えた今回の訓練には、子どもから高齢者まで集落の住民約六十人が参加しました。

訓練当日は、午前十一時に大地震が発生し、地滑り等の土砂災害が発生する危険がある、という想定で行われました。



▶訓練終了後、消防団員から消火栓の説明を受ける住民

集落内二十三世帯が四班に分けられ、班ごとに決められた一次避難場所へ避難し、その後、本部が設置された二次避難場所の集落センターへ移動しました。避難する際、「もし大きな地震が来たら、このブロック塀は危ない」「ここに立て掛けている木材が倒れてくるかも」など、危険箇所を確認しながらの訓練となりました。

五十年前の昭和三十六年に発生した第二室戸台風の影響で、突風により朴坂集落でも何人もケガをした方がいたことや、土蔵の屋根が飛ばされるなど、家屋も被害を受けたことなどが話され、地震や水害だけでなく、どんな災害が起きても、臨機応変に対応できる心構えが大切だということに参加者全員で確認しました。

佐藤区長は「集落でも要援護者名簿を作成し、八十歳以上の方を支援することにしていく。支援を要する人たちに對する支援のあり方についても、今後考えていかなければならない」と話していました。

村内五十四集落のうち、現在、自主防災組織が設置されているのは半分にも満たない二十四集落。自分の命、そして自分たちの地域を守るためにも全集落において自主防災組織の設置が望まれます。



関川村農林業まつり

ふれあいど～むを会場に行われた農林業まつりでは、村の新鮮な農産物がずらり。農林産物の即売会をはじめ、福まきや鮭のつかみどりなど、さまざまな催しが行われ、会場は、大勢の来場者で混雑しました。

無料配布された「朝日豚のとん汁」コーナーは、行列が出来るほどの人気で、来場者を喜ばせていました。

10/30

堀と柳の秋まつり

役場前の柳とせせらぎ通りを中心に行われた堀と柳の秋まつり。前日までの好天はどこへ行ったのか、この日は朝からあいにくの小雨模様。恒例となった「村長ガイド街並み見学ツアー」は相変わらずの人気で、観光客の皆さんは平田大六村長のユーモアあふれる説明に耳を傾けながら、旧米沢街道の街並みを楽しんでいました。



旧米沢街道の街並みとせきかわの秋をダブルで満喫
堀と柳の秋まつり&農林業まつり

歴史ある街並みを 散策しながら健康づくり

～「えちごせきかわ渡辺邸
周辺コース」で初歩き～



東桂苑前に設置された観光案内看板に
目をやる参加者

十月三十日、健康づくりを目的に、渡邊邸周辺に広がる十八世紀の街並みを散策しながらウォーキングを楽しもうと、第三回村民ウォーキングが開催され、村内外から約五十人が参加しました。

コース名は「えちごせきかわ渡辺邸周辺コース」で、全長一・一キロ。この日行われた堀と柳の秋まつりに合わせてお披露目されました。

コース内には、渡邊邸をはじめ、東桂苑や佐藤邸、津野邸、旧齋藤医院、日本六三三制発祥の地の碑など七か所に平田大六村長が文やイラストを手掛けた観光案内看板も設置されていて、見どころ満載

のウォーキングコースとなっています。

村上市荒川地区からウォーキング仲間と参加した和田茂子さんは「このコースは歩きながら色々な発見が出来る。歴史ある場所を歩くことで楽しみがあります」とコースの感想を話していました。

この「えちごせきかわ渡辺邸周辺コース」は現在、県の健康ウォーキングロードに申請中で、十二月中には登録される見込みです。登録されると、村では「歩いて健康！大したもん蛇コース全長五キロ」に続いて二コース目となり、県の健康ウォーキングロードマップに登録されます。



「大したもん蛇米」を無料配布 関川小5年生児童が新潟市内で村をPR

11月18日、関川小5年生児童全員が今年収穫した「大したもん蛇米」を使って、新潟市内で村のPR活動を行いました。

新潟駅、万代シティ、新潟ふるさと村の3か所で行われ、各班とも自分たちの故郷をたくさんの人に知ってもらおうと、それぞれの言葉で村をPRしながら「大したもん蛇米」を通行人などに手渡しました。

万代シティでPR活動を行った山口大斗さん（蛇喰）は「お米を渡しなが、村には大蛇伝説があるということもPRできた。相手の人がとても喜んでくれたので僕も嬉しくなった」と感想を話していました。

この日は、東日本大震災の支援と、今後の学校田での米作り活動のために募金活動も行いました。



三十周年目の今年は 秋を迎えたせきかわで開催 首都圏在住村人会総会

さわやかな秋晴れとなった10月29日、首都圏在住関川村人会総会が東桂苑を会場に行われ、村人会会員や村民など約60人が参加しました。

例年、東京都上野にある「精養軒」を会場に行われている村人会総会。今回は30周年を記念して、関川村での開催となりました。

総会では、事業報告や決算報告などが審議されたほか、30周年記念事業として、会から学校で使う備品の購入費用に使ってほしいと村へ35万円が寄付されました。

総会後に行われた懇親会では、新米の関川産コシヒカリを使ったおにぎりや地鶏コロッケ、わらびの漬物などが振る舞われ、参加者はふるさと「せきかわ」の味を満喫しながら楽しいひと時を過ごしました。

蔵田島出身で、現在は東京都大田区に住んでいる松本チイさん（旧姓・津野）は「関川村で村人会総会が行われるのは本当に嬉しい。このおかげで、久しぶりに兄弟みんなと会い、楽しい時間を過ごすことができました」と関川村での開催を喜んでいました。